

出島蘭館内甲比丹饗宴図模写

村岡 ゆかり

一九九五年七月より、中断を経た後一九九七年四月に出島蘭館内甲比丹饗宴図の模写を完成させた。以下はその記録である。

一 原本

所蔵／中村英勝氏
素地／絵絹（表面が滑らかで、光沢があることから、統本かと思われる。）

装丁形状／掛幅装
顔料（肉眼での推定）／墨・胡粉・黄土・臙脂・緑青・藍・辰砂・岱赭・群青・弁柄・金

原本の状態／横折れと亀裂が一部分に、小さい傷が数箇所に見られる。
しみ・ほこりの他、鉛筆の線らしき汚れもある。変色は、緑青に少し見られる程度である。

二 模写

(1) 材料

和紙／楮紙（楮一〇〇％、Ph値七・三、紙舗「直」製）
顔料／墨・胡粉・黄土・コチニール・白緑・緑青・藍・辰砂（十三番）・岱赭（黄口）（赤口）・白群・群青（十三十一番）・弁柄・金泥

(2) 模写の手順

接着剤／三千本膠（水二〇〇ccに対し、三千本膠一本の割合の水溶液）
筆／水筆・彩色筆・面相筆・平筆・刷毛

①和紙に替水を引く。

②原本の上にポリエステルフィルムを敷く。その上に①の和紙を置き、墨を用いて、建物・人物等の墨で描かれた部分を上げ写す。

③上げ写し完了後、もう一度薄い替水を引く。

④③の紙に裏打ち後、仮張りに貼る。（本所技術官中藤靖之氏による）
⑤絹地の色に似せて顔料を混ぜ合わせ、この混色の絵の具を全面に塗る。

⑥彩色を行う。使用した顔料は〔図〕に示した通りである。

aー墨・焼白緑 bー胡粉・コチニール・黄土 cー岱赭・黄土・焼
白緑 dー胡粉・墨・辰砂・コチニール・岱赭・白緑・緑青・群青・
金泥 eー胡粉・コチニール・弁柄・墨 fー墨・金泥・胡粉・岱赭
gー辰砂・胡粉・墨・黄土・金泥・弁柄 hー群青・墨・胡粉・コチ
ニール・緑青・金泥 iー白緑・岱赭・藍・胡粉・墨・コチニール・
金泥 jー胡粉・墨・緑青・黄土・岱赭・金泥 kー胡粉・墨・弁柄・
金泥 lー胡粉・墨・藍・岱赭・金泥 mー胡粉・墨・群青・緑青・岱
赭・金泥 nー胡粉・墨・コチニール・藍・岱赭・黄土・金泥 oー緑

青・藍・墨・黄土 p | 辰砂 q | 胡粉・墨・弁柄 r | 黄土・胡粉・墨・藍・緑青・辰砂 s | 胡粉・墨・弁柄・金泥 t | 胡粉・墨・辰砂・藍・金泥 u | 岱赭・墨・藍・金泥 v | 胡粉・墨・金泥

⑦彩色後、墨線を描き起す。その後、全体に古色をつけて完成させた。

三 制作を終えて

原本が独特の薄暗い色をしていたため、混色の内容を分析することが困難であった。特に彩色する際、絵の具の発色に関しては、細心の注意を払った。この出島蘭館図は、人物の表情・衣服の模様・装飾物・外の景色等の表現が詳細に描かれている作品なので、その一本一本の線を追うだけで模写の大半の時間を費やした。特に衣服の模様については、厚塗りの顔料の上に描かれているため、最初の上げ写しで写し取ることが出来なかつた。そこで模様は、原本を横において写す、臨写によって描くことになり、模様の位置や数を合わせる点に苦勞した。

De grootste feesten, in de Ruime Salon get' Opgericht byt' de op het Eiland.

